

阿智村教育委員会 令和4年1月定例会会議録

○ 会議日時 令和4年1月27日(木) 午後1時30分

○ 会議場所 阿智村中央公民館会議室

○ 出席者 教育長：黒柳紀春 教育長職務代理：原 勝人
委 員：原 彰彦 委員：熊谷 歩 委員：熊谷 均

【事務局】

教育次長：川上 悟（全体進行） 保育園総園長：原 満
子育て支援室長：島岡佐喜子 公民館兼社会教育係長：井原祐次
学校教育係：沖村信繁 学校教育専門主事：原 康倫
学校教育専門主事：川上清宏 学校教育専門主事：佐々木豊
（欠 席）学校給食係長：石原哲成 英語教育専門員：両角明浩

1 開会

2 教育長あいさつ

- 臨時休校時におけるオンライン学習（通常授業の配信等）の導入について
- 教職員データ保存用NASに係る事故について

3 議事事項

(1) 阿智村立小・中学校職員服務規程の改正について

・教育次長説明

(原 彰彦委員)

改正の意図は何か。この制度を周知するためにはどうするのか

(教育次長)

今回は会計年度任用職員制度の導入、職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の改正、不妊治療休暇の創設、子育て部分休暇の創設、配偶者同行休業の創設等により改正するもの。今回の改正は各学校の事務職員中心に見直しを行い実際の事務も行うので各学校で周知を行う。

(原 勝人委員)

配偶者同行休業とは病院の付き添いをイメージしているのか。

(教育次長)

事務職員との打ち合わせの中で出た事例としては海外の日本人学校に夫妻で行かれた場合等に該当する。

(原 彰彦委員)

この改正にあたってはどのように事務を進めたのか。

(教育次長)

県の準則に基づいて対比しながら行った。県から職員が来て指導してもらうようなことはない。

- ・改正を承認

4 協議事項

(1) 令和4年度教育委員会関係主要事業について

- ・保育園係 総園長説明

(原 彰彦委員)

はんとう棒とはどういうものか。未満児保育の充実とはどういうことか。

(総園長)

上り棒で鉄の棒で登っていく遊具。未満児保育はあふちは0歳児から、伍和・智里東・浪合は1歳児から入所を受け入れられるよう職員を配置するもの。

(熊谷 均委員)

智里東保育園の駐車場整備は今の駐車場を整備するのか、新たに広いところを確保して整備するのか。

(総園長)

現在の駐車場を止めやすく整備する。防火水槽も蓋をする形でそこまで広くできるように要望しているところ。

(教育長)

未満児保育の充実は智里東保育園の増築が具体である。忠魂碑の移設による増築と駐車場の整備を検討している。

- ・子育て支援室 室長説明

(原 勝人委員)

学校と連動したオンライン・タブレット授業の具体的内容は何か。

(子育て支援室長)

通室生がタブレットを使った授業を受けたことがなく、学校と同じようにタブレットを使いオンライン授業も対応できるように補っていきたい。

(川上学校教育専門主事)

ほとんど学校との関わりが持てない中で授業や学級会の様子は見たいとの要望があるので、視聴ができるようにして少しでも登校への意欲が掻き立てられるようにしたい。タブレットを使い少しでも学校と同じように授業ができるような環境にしたい。

(原 勝人委員)

クリアしなければならないことはあると思うが、大事な核として一つでも実現して有効な学習環境を整えてほしい。

- ・学校教育係 教育次長説明
- ・公民館係 公民館兼社会教育係長説明
- ・学校給食共同調理場係 教育次長説明

(2) 阿智村第6次総合計画（前期計画）の検証について

・子育て支援 室長説明

(原 勝人委員)

支援が必要な対象児の保育園から小学校、中学校、高校等にデータが引き継がれるシステムができているのか。後期はどのようにしたいのか。

(子育て支援室長)

ネットワーク会議が3つあり、1つは発達支援や療育が対象の特別支援教育のネットワーク会議があり、対象となる児童の乳幼児健診から高校までの台帳を子育て支援室で作成している。22歳まで保管してその後は福祉係に引き継いでいる。

ネットワーク会議は学校の関係者等で年4回会議を開催し、必要により個別の会議も開催している。虐待であったり家庭の養育に関することは管理台帳を作成して引き継いでいける状態になっている。いじめ・不登校に関しても記録を整備し学校等の関係者に見ていただける状態になっている。中学を卒業してから18歳までの問題が大きく、高校を中退したり高校に行かなかったりのケースは支援ができないケースもあったが、専門性やスキルをもった職員を充実させて相談や支援業務に当たっていききたい。

(原 勝人委員)

保護者の了解もあって資料が作られているのか。

(子育て支援室長)

子育て支援室で相談や支援をした児童について記録やカードの資料を残している。

(原 勝人委員)

資料は保護者も見ることができて共有されているということか。

(子育て支援室長)

特別支援や療育については見ていただける。虐待の問題については守秘義務やマル秘の部分もあり開示できないものもある。

(原 彰彦委員)

「発達障がいについて理解を深める機会を設け学校や地域の中で共に育ち合っていく環境や体制の充実を図ります」とあるが具体的に何か考えはあるか。「子どもの貧困について研究を進め、計画策定に向けて検討する」とあるが阿智村の実態はどうか。

(子育て支援室長)

学習会や講座を計画している。養護学校や病院にいる場合、保護者と面談したり地域の中で生活していくことを共に考えていきたい。家庭の意向を大事にしながら考えていきたい。子どもの貧困については家庭や保護者の状況による。福祉の支援や給付金制度、就学援助費がある。

(原 彰彦委員)

発達障害についてまだまだ知られていないことがあるので、学校の中で理解を得て接することが大切だし、もっと知ってもらう機会を増やしていくことが必要

だ。子どもの貧困についても実態をつかんで何が必要なのか考えてほしい。

・学校教育 教育次長係説明

(原 勝人委員)

村の子どもたちの学力向上に向けていろんな取り組みがなされているが、一方で子どもたちの様子を見たときに基本的な学力の定着をどうするかは進展していない。大事にしたいのは授業体制や学級経営をしっかりできる教師力の向上。これがなければ学力向上の根幹を大きく動かしていくのに難しいと感じる。しっかりした授業をできる先生を育てる。例えば、橘先生に若い先生の授業を見て支援をしていただいている。県の指導主事にも授業改善のために来ていただいている。こうしたものをきちんとやっていかないと、今コロナ禍で研究授業が簡素化したりやらなくてもよいようになっている。実は力をつける機会を逸している。

若いうちにしっかりとした授業観を身に付ける機会を村でも応援してもらいたい。やる気のある子どもたちは施策にのって力を伸ばしてきていると思うが、「勉強はそんなに」というお子さんたちを引っ張るには日々の先生方の授業力が非常に大きいと感じる。学力向上を目指す中に教科担任制の充実も盛り込まれるとうれしい。

(原 彰彦委員)

教師の教育力向上は求められるところだが、その中で学力向上委員会の方で市川先生の授業が行われ川上先生からも厳しい言葉がありました。「先生たちに力を付けていただかなくては」だが、各学校の様子が全然違う。学力向上を考えた時に各学校の実態を踏まえて先生たちの向上、子どもたちの向上など、その研究が統一されたものというよりその見直しをしていく必要があるのではないか。発達障害やICTの研修をしっかりやることも大事だが、先生たちに本気で取り組んでもらわなければならないことを尊重しながら、各学校の統一したものが何か、或いはそれぞれの特色を活かすのかを踏まえて学力向上を考えてもらいたい。

(原学校教育専門主事)

授業改善や学級経営が学力向上に与える影響は非常に大きいと認識している。先生方のアンケートにもあるようにその要素を研修の中にも入れてサポートしていきたい。村としてはコロナ禍においてオンラインの研究授業をしたが、やはり実際の雰囲気や状況が見たいとの声が多かった。今後、村の研修になるような実演的な研修も考えていきたい。橘先生については年2回若駒職員と兼用して研修会を実施している。日頃からきめ細かな指導をしていただいております。

市川先生の「教えて考えさせる授業」についてはコロナ禍において別の研修をお願いしたいとの声もあり、アンケートをとりながら方向性を検討していく。

(熊谷 歩委員)

阿智高校の応援隊について、どういうことをしているか。支援とは何か。

(教育長)

現在は自然消滅しているが、以前はOBや地元の人たちが入学式や卒業式など

行事の際に正門で生徒や保護者を歓迎したり交通整理等の応援をしていただいた。支援とは具体的には財政支援のこと。主に神坂学習塾の専任講師や非常勤講師の給与、学校案内パンフレットなどの経費に充当されている。

(原 彰彦委員)

オンライン交流をしているわけだが、少人数学校同士の交流は盛んにされているが大人数学校と少人数学校との交流が少ないと聞いた。色々な小学校との交流をしながら中学に入った時に打ち解けやすいようにしていけると良い。

(教育長)

第三小・浪合小・清内路小の交流は盛んである。平谷小が加わることもある。社会見学や合同授業も行っている。確かに第一小となるとなかなか難しいが、通年合宿時における浪合小との交流や、中学校に上がる5小学校の全6年生が一堂に会してオリエンテーションを行っている。また、特別支援学級の6年生児童はその子どもたち同士の交流の場も設けている。

(佐々木学校教育専門主事)

昨年度は外国語の学校間での交流をした。今年ももう少し進めていきたい。個人に合わせた学習を進めることができるスマイルネクストがある。その機能の中で学校間交流もできるということでICT担当の川上先生とも話しています。中学校の校長先生からも小学校のうちにもっと広げてほしいとの声もあり、進めていきたいと思っている。

・保育園 総園長説明

(原 彰彦委員)

今現在、小学校との連携はどの程度行われているか。また、先生たち自身が保育園へ行って研修をする機会はあるか。小1ギャップを減らすためにも子どもたちの実状を知っていけるようなことも視野に入れていけると良いのでは。

(総園長)

保小連絡会や各行事に学校の先生方に来ていただいて子どもたちの様子を見てもらっている。また、小学生に保育園へ来てもらい交流するというのもしている。全職員ではないが、3年くらい経験した先生が異業種交流のようなこともしている。

(熊谷 歩委員)

以前、新任の先生のクラスに入りたくないという親御さんがいたが新任でクラスを任されることは今でもありますか。

(総園長)

公立の保育園では欠員したところに入る形になるので、初めての先生が担任を持つこともある。ただ、課題もあるので、できるだけ主任が入って保育指導にあたりバックアップできるような体制に配慮している。

・社会教育 公民館兼社会教育係長説明

(熊谷 均委員)

成人式について。今は18歳が成人となるが、阿智村では対象年齢の変更を考え

ているか。成人が18歳になったので責任を持って意識改革していくためにも成人の儀式を18歳にした方が良いのではと思う。選挙に向けても意識して行けるのではと感じる。

(公民館兼社会教育係長)

阿智村では現在20歳であるが、今後検討していきたい。

(原 彰彦委員)

スポーツについて。阿智村で目立っているのがバレーボール女子であるが、後継者の発掘をしていく必要がある。後継者を育ててほしい。私たちの阿智村の冊子がまだ余っているとのことであり、宝の持ち腐れにならないよう阿智村を知ってもらうために知らせていけたらと思う。

(原 勝人委員)

人材育成も大事で、阿智中クラブの指導者も定員に集まった。テニスでは平谷から来ていただいている。

(熊谷 均委員)

学校のスキー教室も計画していただき、村の子たちに楽しんでもらってゆくゆくは指導者になってくれたら理想だ。

(熊谷 歩委員)

障がい者スポーツの講習会、講演会を実施してほしい。県に依頼すると車椅子を20台くらい持ってきてくれて無料で体験もできる。2027年に長野で障がい者スポーツ大会が実施されるのでお願いしたい。

(公民館兼社会教育係長)

障がい者スポーツを進めていきたい。ボッチャはチャレンジフェスティバルにおいて大変好評であった。

(原 勝人委員)

村の文化財を見せる取り組みを積極的に実施することや施設の整備をすることが大切である。

(公民館兼社会教育係長)

収蔵館は駒場と清内路にあるが雨漏り等もあり環境は良くない。展示もできる施設は欲しい。

(3) その他

・なし

5 報告・連絡事項

(1) 各係より

① ふるさと学習発表会について（学校教育係）

・佐々木学校教育専門主事説明

② 海外交流について（学校教育係）

・佐々木学校教育専門主事説明

③ 社会教育研究集会について（社会教育係）

・公民館兼社会教育係長説明

(2) 2月定例会教育委員会開催日

2月25日(金)午後1時30分より ※3月は24日(木)を予定

(3) その他

(原 彰彦委員)

飯伊の学校のコロナの状況はどうか。

(教育長)

飯田市は12校休校したが10校が再開、2校が休校中である。高森町は小学校3年と1年が学年閉鎖をした。

6 閉会

(閉会 午後4時00分)

教育長・教育委員 署名／捺印